

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月25日
札幌市立豊平小学校

1 本年度の重点目標

「自立する力と共生する心の育成」
-笑顔があふれる 楽しい学校の創造-

2 本年度の経営方針

○学ぶ力の育成 ○豊かな心の育成 ○健やかな体の育成 ○特別な配慮を必要とする子どもへの教育
○信頼される学校の創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(A:達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成していない D:達成できなかった)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	子どもが学習に対する期待感や見通しをもち、楽しさや興味を感じながら問いを立てて主体的に課題に取り組み、学びの過程や成果を振り返り、学習の価値や意味を実感することができたか。	A	「自己決定・自己選択」の場がある「マイプラン学習」を取り入れた全校研授業や、日常授業を見合う『オープントイム』を教員全員が実施し、一定の成果があった。新年度も、「自分で見通しをもって学ぶ」「問いを立て続ける」姿勢を大切にした学習を目指し、授業改善を図っていく。	A	A
	一人一人のよさや伸びを認め、自信をもたせる指導と評価を一層の充実させることができたか。	A	日常実践を積み重ね、指導と評価の一体化に重点を置いてきた評価が表れてきた。今後も、自己肯定感を高め、子どもたちが「楽しみ」ながら、学びに向かっていくための工夫・環境づくりを実践していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		子どもたちが楽しみながら、主体的に学ぶ姿勢を持ち続けていけるよう、今後も教職員の研修を通して授業改善を図っていく。			
豊かな心の育成	相手意識を大切にした言語環境・日常生活の整備等、当たり前のことを当たり前にさせることができたか。	B	廊下歩行、挨拶については、ルールだけではなく、「相手のため」という意識を基本として指導してきたが、今後も一人一人が自分のめあてをもって実践できるよう、教職員の共通理解のもと、工夫・改善を図っていきたい	A	A
	相手意識をベースに、思いやりの心・規範意識・人間関係を築く力や社会参画への意識、自己実現を図ろうとする態度等の自主性と社会性を育む特別活動を充実させることができたか。	B	委員会・クラブ・ふれあい活動を通して、子どもたちの主体性を育めるように取り組んできた。 今後は、委員会組織の再編を行い、子どもたちがより主体的に学校と関わり、所属意識や自己肯定感を高めていけるように取り組んでいく。 また、「ネットモラル週間」を年2回設定し、児童の相手意識を高めていくとともに、家庭と連携しながら進めていけるようにする。	A	A

(様式2)

学校関係者評価委員 による意見		子どもたちの相手を思いやる心を引き出し、ゆとりをもって行動することができるよう、今後も家庭や地域と連携し、豊かな心を育てていく。			
健やかな体の育成	子どもの体力向上につながる、体を動かす楽しさや喜びを味わうことのできる体育の授業を推進することができたか。	A	今年度も、跳び箱週間・マット週間を行い、子どもの運動量を増やし、運動への意欲を高めることができた。次年度は、グラウンドでの活動場所を工夫・改善したり、委員会と連携したイベントを実施したりするなど、さらに運動する環境を充実させていきたい。	A	A
	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の保持増進や、自他の生命を大切にする態度等を育む指導を充実させることができたか。	A	ハンカチ・ティッシュの携帯については、委員会活動と連携した取組が子どもたちの動機づけとなり、成果が表れている。次年度も、保健だより等を活用し、子どもの実態に合わせた学級での指導を通し、健康や命について、子どもたちの意識を高めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、楽しみながら体力の向上を図ることができるよう、運動する環境を整えるとともに、子どもたちの健康や命の大切さについての意識を高めていく。			
特別の配慮を必要とする子どもへの教育	子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を行うことができたか。	A	保護者との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行ってきた。今後も多様な教育的ニーズに対しての支援の工夫・改善を図っていく。	A	A
	新たな不登校を生まない未然防止の取組と、一人一人に寄り添った組織的・計画的な不登校支援をすることができたか。	A	児童の情報を職員が共通理解し、スクールカウンセラーやSSW等の関係機関との連携を図り、子どもの居場所づくりや、保護者への支援を行い、未然防止につながった。次年度も『相談支援パートナー』を活用しながら、保護者との連携を深めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、保護者や関係機関との連携を大切にし、子どもたちの教育的なニーズに合わせた支援環境を整えていく。			
信頼される学校の創造	「全教職員が全校児童の担任である」という協働体制と指導力・資質・能力を向上させることができたか。	A	児童について、職員集会の場で情報の共有の場や、児童理解を深めるための研修の場を設定することで、指導の工夫・改善を行った。また、教科担任制や交換授業を取り入れ、チーム豊平小として子どもの成長のために同じ方向性でかかわっていけるよう、共通理解を深めた。「情報共有システム」を活用しながら、今後も、一人一人の子どもたちに寄り添った教育ができるよう、努めていきたい。	A	A
	「楽しい」を十分意識した教育活動を実施することができたか。	A	子ども一人一人のよさに目を向け、授業の中で子どもの考えを価値付け、楽しく取り組める教育活動の充実を図ってきた。次年度も、きめ細かな見取りと、子どもの思いに寄り添った教育活動を継続していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、「全教職員が全校児童の担任である」という意識を大切にし、子どもたちが互いのよさを認め合い、人との関わりを通して大きく成長できる学校づくりを目指していく。			